

氏名	山本 智恵子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第125号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位論文の題目	看護職者の共感ストレスに関する基礎研究
学位審査委員会	主査 山口 三重子 副査 荻野 哲也 副査 入江 康至 副査 村社 卓 副査 實金 栄

## 学位論文内容の要旨

本学位論文は、看護職者の精神的健康の維持・向上に資する基礎資料を得ることをねらいとして、看護職者の共感に関連したストレスに対する曝露とストレス認知が精神的健康に与える影響を明らかにすることを目的とした。この目的達成のために、本学位論文では、研究課題1として、看護職者の「共感ストレス」ならびに「共感ストレス認知」の測定尺度の開発すること、また研究課題2として、看護職者の共感ストレスに対する曝露と共感ストレス認知が精神的健康に影響するという因果関係モデルを実証的に検証することの2つの課題を設定した。

序論では、労働者の精神的健康に関する社会的背景や看護職者の精神的健康の現状と課題について、関連する研究動向を整理した。具体的には、看護職者の精神的健康の維持・向上のための対策として、労働環境などの職場ストレスに対する改善策が講じられているにも関わらず、精神的健康の不調者は減少していない現状を述べ、職務ストレスに対する効果的な対策はいまだに示されていないことを指摘した。さらに、職務ストレスの中でも、看護職者には職務上で欠かすことのできない患者・家族などへの「共感」により生じるストレスに着目し、先行研究を概観した結果、共感によるストレス認知を測定する尺度が皆無であることが推察され、共感により生じるストレス認知が精神的健康に与える影響の知見が不十分であることを指摘した。

本論では、本研究で設定した2つの課題解決のために行った調査について明示し、それぞれの結果に対する考察を行った。調査対象は、日本医療機能評価機構の認定を受けている病院一覧より無作為に抽出した100病院に勤務する看護職者2,000名とした。調査方法は、郵送法による無記名自記式質問紙調査で、看護管理者に役職のない各施設20名の看護職者に調査票配布を依頼した。調査内容は、対象者の基本属性に加え、看護職者の共感ストレスおよび共感ストレス認知、精神的健康で構成した。共感ストレスに関する質問項目は、先行研究を参考に看護職者が苦悩を抱える患者およびその家族と関わる際の共感に伴い発生するストレスフルな場面を抽出し、「日常的なケア

での関わり」「終末期の関わり」「苦悩との向き合い」各3項目、全9項目で構成し、回答を体験の有無の2件法で求めた。共感ストレス認知に関する質問項目は、共感の4つの構成要素を基礎にし、「道徳的共感ストレス」「情動的共感ストレス」「認知的共感ストレス」「行動的認知ストレス」各3項目、全12項目で構成し、回答を4件法で求めた。精神的健康は、Kesslerらにより開発されたK6で測定した。統計解析には、必要な調査項目に欠損値を有さない584名分のデータを使用した。研究課題1について、共感ストレス測定尺度は3因子二次因子モデル、共感ストレス認知測定尺度は4因子二次因子モデルを仮定し、構造的側面からみた構成概念妥当性を確認的因子分析で検討した。また、研究課題2について、Lazarusのストレス認知理論を参考に看護職者の共感ストレスを二次要因、共感ストレス認知を一次要因、精神的健康を従属変数とする因果関係モデルを構築し、構造方程式モデリングを用いてモデルのデータに対する適合性と変数間の関連性を検討した。

研究課題1の統計解析の結果、本研究で仮定した看護職者の共感ストレス測定尺度および共感ストレス認知測定尺度の因子構造モデルのデータへの適合度は、それぞれ統計学的な許容水準を満たすものであった。以上の結果は、概念的次元性を備えた看護職者の共感ストレス測定尺度が開発できたことを示している。さらに、看護職者の共感ストレス認知においては道徳的共感、情動的共感、認知的共感、行動的共感の4要素の側面から把握できることを初めて示した。

研究課題2の本研究で構築した因果関係モデルを構造方程式モデリングで検討した結果、モデルのデータに対する適合度は、統計学的な許容水準を満たすものであった。変数間の関連性は、看護職者の共感ストレス測定尺度と共感ストレス認知の間に、また、共感ストレス認知と精神的健康の間に統計学的に有意な正の関連性が認められた。

以上の結果より、共感ストレス測定尺度に対する曝露と共感ストレス認知が精神的健康に影響していることが明らかとなり、Lazarusのストレス認知理論の理論的因果関係が実証できたことを示した。さらに、本研究で開発した共感ストレス測定尺度および共感ストレス認知尺度がストレスチェックのツールとして活用できること、看護職者の精神的健康の維持・向上には共感ストレスの軽減が必要であり、看護部の組織的な支援が望まれることを示すものである。

結論では、以上の結果を踏まえて本学位論文で得られた主な結果および学術的貢献を総括し、臨床への示唆についても述べている。

### 主業績

No.1	
論文題目	看護職者の共感ストレスサーと共感ストレス認知が精神的健康に与える影響
著者名	山本智恵子、西村夏代、出井涼介、山口三重子、中嶋和夫
発表誌名	社会医学研究、第 35 卷、第 1 号、109-118 頁、2018.

### 副業績

No.1	
論文題目	看護職者の共感に関連したストレス測定尺度に関する批判的論評
著者名	山本智恵子、西村夏代、山口三重子、出井涼介、中嶋和夫
発表誌名	新見公立大学紀要、第 38 卷、第 1 号、57 - 63 頁、2017.

## 論文審査結果の要旨

本学位論文は、ラザルスのストレス認知理論を本邦の看護師を対象に演繹的に検証した研究である。本研究は、看護職者の精神的健康の維持・向上に資する基礎資料を得ることをねらいとして、共感に関連したストレスに対する曝露とストレス認知が精神的健康に与える影響を明らかにすることを目的とした。第一に共感ストレスナーならびに共感ストレス認知の測定尺度を開発すること、また第二に共感ストレスナーに対する曝露と共感ストレス認知が精神的健康に影響するという因果関係モデルを検討することを課題とした。

第一の課題では、看護職者の職務ストレスナーに関する研究を参考に9項目、3因子二次因子モデルを仮定した看護職者の共感ストレスナー測定尺度を、看護領域での共感構成要素を基礎にし、12項目、4因子二次因子モデルを仮定した、看護職者の共感ストレス認知測定尺度を作成し、構成概念妥当性を確認的因子分析で検討した。その結果、概念的次元性を備えた看護職者の共感ストレスナーおよび共感ストレス認知を測定する尺度が開発できた。

第二の課題では、Lazarusのストレス認知理論を参考に共感ストレスナーを二次要因、共感ストレス認知を一次要因、精神的健康を従属変数とする因果関係モデルを構築し、構造方程式モデリングでモデルのデータに対する適合性と変数間の関連性を検討した。その結果、モデルはデータに適合することが統計学的に支持され、Lazarusのストレス認知理論が実証的に支持された。さらに変数間の関連性より、病院勤務の看護職者において、共感ストレスナーに対する曝露と共感ストレス認知が精神的健康に影響していることが明らかになった。

これらのことから、看護職者が患者・家族に共感することで生じるストレスが多度に精神的健康に影響することが示唆され、看護職者の精神的健康の維持・向上には、共感ストレスの軽減が必要であり、看護師および管理者の各々がストレスに気づき、精神的健康の改善へと行動することや看護部の組織的な支援が望まれることを示すものである。

以上の通り、本論文における一連の研究成果は、看護師の精神的健康の維持・向上のための新しい知見を提供するもので、看護学分野の研究と実践に対して有意義なものと判断された。また、予備審査論文発表会ではプレゼンテーションおよび質疑に対する応答は適切であり、申請者は当該分野における十分な専門的知識と研究能力を有していると判断された。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（看護学）の学位論文として価値あるものと認める。